第3回 各ワーキング結果要旨 まとめ

	論点	意見要旨
1	「朝来市役所・地域自治協議会・区のあるべき(目指す)関係性」に係る、課題や取り組み、指針案の記載に対する考え方	「地域自治協議会と区長会のあり方について、もう少し踏み込んだ話が必要だったのでは」 「(地域自治協議会と区について)重なっている部分が多いが、特に生活に密着している部分を区が担い、地域づくりのことを地域自治協議会が担ってきた。市民に認知されているかはわからない」 「地域自治協議会が設立された当時は、区長会が上なのか、地域自治協議会が上なのかという話があった」 「地域自治協議会の枠の中に、行政区と区長会が記載されている。上下関係の話ではなく、これまでも重要な構成員であることに否定はなかったはず」
2		「社会福祉協議会だけ特別に記載されていることについて。広く住民から会費を集めていたり、生活支援体制整備事業を受託して進めているので、そのまま記載すべき」
3		「“要望”という表現をしてしまうと、市への意見を出す方法がルール化されたように感じる。表現は見直した方が良い」
4	地域自治協議会の役・委員の輪番制、動員について	「地域自治協議会の1つの課題は、部会に人が集まらないこと。特に若い人は集まらない。費用弁償を払えば来てくれるのだろうか」 「地域によって(役・委員)の選出方法は違う。輪番や区からの選出、希望者など様々」 「地域の活動を経験してもらうためや、そもそも担い手が少なくなりすぎて仕方なく輪番制にしている場合もある」
5	行政から地域自治協議会への依頼事項について	「新しいことばかりに目が行きがちだが、地域自治協議会には中間支援的な組織としての意味がある。交付金をもらって、市がやっていたことを請け負っている」 「市から各区に出していた通知が地域自治協議会へ1本化できれば、それだけでも行政のスリム化になる。市の事務効率を上げるために、他にも市から地域自治協議会へまとめていくことを進めるべきではないか」 「交付金について、どのように交付されて、どう使われ、どう監査しているのか、チェックすべきではないか」
6		「踏み込んで記載するのであれば、区長報酬についてどうあるべきか記載が必要。現在は、区長個人に渡しており、市と地域自治協議会の関係性として今後整理する必要がある」

	論点	意見要旨
7	記載項目の扱いや指針案全体の記載に対する考え方について	<p>「【参考:地域自治協議会に求められる要件】については、条例として示されている前提となる話。参考ではなく、本文として記載すべき」</p>
8		<p>「指針は策定して終わりではなく、2年間話し合った具体的な内容もコラムでも良いので記載した方が良い。または、具体的な内容は来年度以降に進めていく旨を記載する必要がある」 「他の市町でも指針だけではなく、策定後のフォローや支援体制の整備を合わせて実施している」</p>
9		<p>「誰もこの指針のことを知らない。本来は、どの地域自治協議会もこの指針に基づいて進めないといけないはずだが(そうはなっていない)。」 「地域自治協議会の認識(役割やあり方)は、各地域によってばらつきがある。行政の下請けやイベントだけやれば良いと思っているところもある。バランスよく認識してもらえるような指針にしないといけない。」 「指針として、(最低限の)記載であれば、取り組みは進んでいかない。踏み込んだ表現をする必要がある。」</p>

	論点	意見要旨
1	災害時の安全確保に係る、課題や取り組み、指針案の記載に対する考え方	<p>「社協で福祉マップを作製し、支援者を認識している。区の福祉部会で周知している」</p> <p>「寝たきりの方、独居の方の把握が必要」</p> <p>「個人情報の壁がある」</p> <p>「防災士など、資格や知識を身につける方を増やしてはどうか」</p> <p>「老人福祉施設等の対応、身寄りのない方や動けない方をどうするかは課題」</p> <p>「走れる年齢であればいいが、抱き抱える必要がある子どもがいると避難が大変」</p> <p>「指針案の〈区〉の項目に民生児童委員だけではなく、区の役員(区長、副区長等)も記載すべきではないか」</p>
2	移動支援に係る、課題や取り組み、指針案の記載に対する考え方	<p>「スタートしたデマンド式は高齢者の方にはハードルが高そう」</p> <p>「JR和田山駅、階段でホームに行かないと行けないのでベビーカーが運べない」</p> <p>「夜にタクシーがつかまらない」</p> <p>「子育て世代に対して出ていくための支援が大事。神戸では〈陣痛タクシー〉という登録制度がある」</p> <p>「2~3年、自家用有償運送の取り組みをしていたがリスクがあって撤退した。運転手の成り手がいない。タクシー会社と競合してしまう。利用者もあまりいなかった。頼んできてもらうのが不憫」</p> <p>「免許返納は実際、難しい」</p> <p>「子育て目線、サイクルテインなど、多角的な視点もいる」</p> <p>「これから移動が困難であれば自宅登録を推奨したい」</p>
3	買い物支援に係る、課題や取り組み、指針案の記載に対する考え方	<p>「地域のグループへの配送は学校共済やコープがある。ただコープ個配は注文の仕方が難しい。スマホが使えたらより便利」</p> <p>「社協の配食サービスは無くなった」</p> <p>「買い物移動にアコバスは乗ってない」</p> <p>「身内での買い物支援が多い」</p> <p>「移動販売、山東では良く見かける」</p> <p>「コープ等の情報を提供するようなPRの取り組みを拡充してはどうか」</p> <p>「イオンがやっているネットスーパーを利用するのはどうか。PRできるのではないか」</p>

	論点	意見要旨
4	農業の大規模化、基盤整備に係る、課題や取り組み、指針案の記載に対する考え方	<p>「農地を集約し、大規模化が進んでいる。持続性を考え、個人へ委託することよりも組合や農業法人に依頼できるような仕組みが必要。」</p> <p>「国を中心に、“基盤整備”や“再整備”が進められており、文言だけでも入れておいたほうが良い」</p> <p>「基盤整備を進めると、生産の効率も上がるが、草刈りや水路泥上げなど管理面の効率も上がる。今のままでは、時代にそぐわない。」</p> <p>「地域計画の話し合いを見ていると、参加者に“もやもや”が残っている様子。出来あがった目標地図も現状のままになっているケースを見た。前向きに取り組める計画にする必要がある。」</p> <p>「(農業分野に限ったことではないが)人口が激減する見込みだが、指針を読む人で危機感を持つ人は少ないと思う。もっとドラスティックに書いたほうが良い。」</p>
5	農業振興に係る、課題や取り組み、指針案の記載に対する考え方	<p>「岩津ねぎは、夜久野高原でも栽培されているところを見た。特産物の広域的な栽培・発信に注力していくべき」</p> <p>「最近、オーガニックビレッジ宣言をした。有機農業に対して、積極的に取り組んでほしい」</p> <p>「地元の人は、地元の農作物を買うことが少ない。給食で積極的に使うことで、地元の農作物を知りつつ、消費を増やしてほしい」</p> <p>「子どもが都会から帰ってきた。仕事をしながら兼業農家になるための研修を実施してほしい」</p>
6	空き家対策に係る、課題や取り組み、指針案の記載に対する考え方	<p>「相続放棄された物件と所有者不明の物件について専門的な相談窓口がない。具体的にどんなことができるのかも含めて検討する必要がある」</p> <p>「個人の持ち物だということは分かるが、空き家バンクに登録されている物件の価格等についてより踏み込んで調整する必要がある」</p> <p>「事前準備として生前整理を心がけてしていく必要がある。不要なものは生前に片付けをしておく、いざという時の処分が楽。行政と社協等の専門機関が連携をしていくと良い。事前の片付けは空き家予防にもなる」</p>
7	移住者受け入れに係る、課題や取り組み、指針案の記載に対する考え方	<p>「空き家バンクに、現状のままで住める物件情報がほぼない。修繕を前提にした物件が多いが、住める状態で提供することで移住者のハードルが下がる」</p> <p>→「雨漏りの修繕や仏壇の処理等、空き家バンクに登録する際の規定の見直しが必要」</p> <p>「空き家バンクは売買が多く、賃貸が少ない。移住してすぐに空き家の購入はハードルが高い」</p> <p>「移住者という自覚がなかったため、移住者支援に辿り着かなかった。転入受け入れ窓口で支援制度に繋げるべき」</p> <p>「区の当たり前が言語化されていないので移住した地区の制度や慣わしが分かりづらい。移住者が区や地域とのつながりを作る、知る機会が少ない。区や自治協でそういった支援ができると良い」</p> <p>「指針案の『空き家対策・移住者受け入れ』の項目で、『移住者受け入れ』のボリュームを支援の内容も含めてもう少し拡充した方が良い」</p>

	論点	意見要旨
1	求められる役割と事業 - 重視すべき視点について	<p>「子ども・女性・若い世代」という表現の中でも「子ども」の中に一人一人がイメージできる範囲が違う。中高生や大学生が置き去りにされないようにしたい。子ども(中高生含む)はどうか」</p> <p>「相談や助言」という表現の関係性について明記したほうがわかりやすい」</p> <p>「以前はイベントやって人を集めるのが自治協議会の役割と考えている人もいるが、これからの自治協の動きはそうではない。全体を見て、イベントと課題解決や収入を得るような事業を両立していくべき」</p>
2	体制・事務局の在り方 - 役員選出の在り方について	<p>「任期制にしている地域もあると聞く。役員だけではなく事務局員についても人材が不足しており、任期制等一律の制度を設定するのは難しい」</p>
3	体制・事務局の在り方 - 区長との運営・合意形成面での連携について	<p>「地域自治協議会の合意形成・意思決定について地域の総意が反映されていること、地域の代表性についての記載が必要」</p> <p>→「地域自治協議会の役割と今後の在り方」に朝来市で規定されている地域自治協議会が備えるべき条件(総意や情報公開等)について改めて記載し、その上で「重視すべき視点」を記載する。地域の総意として区やテーマ型世代を含めて意思決定できる体制が大切ということは2)体制・事務局の在り方の何れかの箇所に記載するのが良いのでは」</p>
4	多様な住民・人材の参画に向けた体制や取り組み - 部会の在り方について	<p>「各区から4名が選出され参加、各部会員になっている。区の中での選出の際に区長や部会長が部会活動の説明や共有を十分にせず選出する場合もあることに課題を感じている。部会活動への参加人数は全体の6割でなんとか活動を継続できている」</p> <p>「いくのでは人数が多い部会是人集めも十分にできているが、そうでない部会、特に福祉部会は弱い。部会によって活動にイベント性があるかないかに差がある。福祉部会をはじめ、イベント性がなところは目立たないことも課題。しかし中身は充実している場合もある」</p> <p>→「いくのは地域おこし協力隊によって福祉部会を再編しようとするなど、新たな取り組みもある」</p> <p>「与布土は活動をする際に部会員だけではなく、民生委員や消防団などプロジェクトごとに+αの必要な人員と共に活動をしている。選出方法について設立当時は当て職もあったが、今は声を掛け合って参加している。地域の代表性については欠ける部分もあるが、主体性はある。区からの選出等、これまでのやり方では地縁型の代表性は担保はできるが、テーマ型の代表性は担保ができない。対してやりたい人だけが集まると地域の代表性に欠ける。意思決定する際にその議題のテーマ分野に関する対象者がカバーされていれば代表性に関しても良いのではないか」</p>

	論点	意見要旨
4	多様な住民・人材の参画に向けた体制や取り組み - 部会の在り方について	<p>「粟鹿ではやりたいことを提案すれば部会を自由につくることができる。今年は「女性サークル」という部会ができた。たとえば「生涯学習」と名のついた部会では、その表現に縛られてしまって活動ができない場合があることからこの取り組みをしている。イメージ図(案)の赤い点線のグループのようにすると活動費が充てられない場合もあるので「部会」扱いとした」</p> <p>→「イメージ図(案)ではツリーの一部として記載しているが、仰っているのは独立してグループや部会が存在しているイメージで記載するのが良い」</p> <p>「まずは自治協を知ってもらわないといけない。土曜チャレンジをやることで子供、その親などへの周知ができてきた。他の地域がやっていることを後追いでやっているようなカタチだがちょっとずつ実現して、そういった活動を多方面に広げていく。今後はWebサイトの作成、SNSも整えて発信していきたい」</p> <p>「粟鹿では一度、手挙げ方式にしたが十分な人員が集まらなかった」</p> <p>「地域自治協議会には協議機能と活動機能が共通してある。部会はどちらかという活動機能に該当するが、そこでは必ずしも代表性を担保しないといけないわけではない。しかし活動によっては地縁型のコミュニティとテーマ型のコミュニティのどちらも入っている方が良い場合と手挙げの方がメインでやるのがよい場合もあると思うのでケースによっての考え方の整理が必要。部会の活動のテーマや内容によってどんなコミュニティの参加があると良いのかを考え、きっかけは色々なやり方を地域ごとに考え、みんなが主体的に関われるようにすることが大事」</p> <p>→「与布土の場合、代表性は運営委員会で担保している」</p> <p>「区から部会員が選出されるルールであったとしても、誰でも参加できるよう開かれていることが大事」</p>
5	区への補完や支援の在り方 - 区同士の連携の促進支援について	<p>「小規模集落ヒアリング時に「合区を考えている」という声をすでにいくつか聞いている。その際の相談窓口をどうするべきか。地域自治協議会として何ができるかはまだ分からないが、その準備も含めて指針(案)に記載している。情報を吸い上げていただくことが重要。その後専門家に繋ぐ等をしていく想定」</p>

	論点	意見要旨
1	言葉・単語の使いわけ・定義について	<p>「市民自治、住民自治、地域自治という言葉がそれぞれに記載がある。言葉の定義がなされているか。使いわけているなら、その定義を明確にし、統一すべきであれば統一を」</p> <p>「まちづくりという表現があるが、重層支援の制度には、地域づくりとの記載がある。重層支援の制度では地域づくりで統一して記載しているはず。市条例では地域づくりということが多い」</p> <p>⇒当初からの条例等では、自治協議会に関しては、まちづくりの表現が多く、まちづくりに統一。重層支援や社協に関する箇所は地域づくりとする</p> <p>「上記外にも言葉の定義、使いわけがなされているかチェックが必要」</p>
2	地域協働と協働の相手方の整理	<p>「地域協働の相手方は地域自治協議会と図には記載されている。パートナーとしてはそうかもしれないが、協働の相手は市民活動含め、オール市民である。地域自治という言葉の定義をしたうえで、地域自治協議会がパートナーとして重要という整理の仕方が必要。自治協議会を通さなくては協働ができないという見え方にならないようにすることが必要」</p> <p>「過去、協働の基盤は地域自治協議会であるとして整理した上で、地域協働と表現すると整理した記憶がある」</p>
3		<p>「外部ではなく、内部で引き継ぎをきちんとできるのか。異動しても大丈夫と言い切れるのか」</p> <p>⇒「配置を目指す地域支援専門の職員は一定年数従事できる人材配置に配慮する。重層支援体制の職員のこととも関わるが、ノウハウ蓄積が途切れないような体制を構築する」</p>
4	市役所内部の地域支援体制における諸課題(引き継ぎ等)について チームでの支援体制を構築することについて	<p>「チームをつくることを大切にすることはこれまで確認してきたはず。例えば、市役所の担当者が異動しても、支所、市、社協など3人がチームを組んで、具体的に地域自治協議会の状況やどういった関わりするかを共有しながら支援に従事していけば、1人が異動したとしても、他の2人が引き継げる、新たに配属になった職員も動きやすい。そのチーム支援体制が資料では見えづらい」</p> <p>⇒「図でチーム支援という言葉を含めてははっきりと記載するようにする。複数の担当者がチームとなって、継続的に支援していくイメージが伝わるように記載する」</p> <p>⇒「現状、アウトリーチできる職員がいないが、地域支援専門の職員が配置されれば、地域の情報を庁内で共有できるよう、横断連携の体制も構築することを目指したい」</p> <p>「地域としては、市の誰に・どこに地域のことを相談すればいいかわかるようにしてほしい、誰がどういった助言や支援をしてくれるのかわかるようにしてほしい」</p>
5	支所による地域支援体制の実現可能性について	<p>「アウトリーチ支援が支所の役割にある。指針は目指すべき姿であるが、本当にその体制が作れるのか」</p> <p>「現状では支所の地域自治協議会や区長会との関わりは限定的、具体的にどういう支援・役割があるか分からない」</p> <p>⇒「そういった支援の役割等も含めて当初は研修が必要」</p> <p>「市役所内部の支援体制をどう10年かけてつくることを指針に記載することで良いか」</p> <p>⇒「全庁あげて進めていく必要があることを確認し、指針に記載することにする」</p>

	論点	意見要旨
6	生涯学習課を支援体制の中に位置づけることについて	「生涯学習課が記載されていない。市民活動グループは生涯学習課がよく知っている。どこかに生涯学習課を明記しておくべき」
7	スーパーバイザーの時限的な役割について、記載の仕方について	「伴走支援やアウトリーチの支援は支所の役割であれば、スーパーバイザーの役割に地域支援同行と記載するべきではない」 ⇒「当面のスーパーバイザーと一緒に支所職員といっしょに動くということも想定される、研修的期間が想定される」 「指針は目指す形を記載するものであり、図にあるスーパーバイザーによる現場の支援は常に続けられるものでなく、時限的・限定的に記載しておくべき」
8	重層的支援体制の支援方法の記載内容について(アウトリーチが中心)	「重層的支援体制の支援者はアウトリーチが必須になっている。重層的支援の支援者と支所がどのように連携してアウトリーチしていくのかがわかりにくい」 「コミュニティワークとコミュニティソーシャルワークがあり、重層的支援と重なるのはコミュニティワーク。個人と社会資源にどうつなげるかまでこの指針の中に記載すべきなのか。コミュニティワークの部分だけを分けて記載したほうがいい」
9	支援の具体的な対象者がわかりにくいことについて	「地域自治協議会の具体的に誰への支援なのか。部会員なのか、事務局なのか、役員なのか、わかるようにするべき」 「活動への支援であれば、活動経費が必要。今はボランティアでやっている。一括交付金に含まれているのか」 ⇒「活動費用が一定含まれている」 「支援は必ず必要。地域自治協議会や活動の状況を見てもらいながら、必要ときに、必要な支援をしていただけるのが良い」
10	地域自治協議会事務局への支援の内容について	「事務局専属の職員を配置することは行わないとしている一方、事務局への支援という表現がたくさんある。事務局職員の支援とは何か、自治協議会の事務局は地域でやる気や取り組んでいる人のコーディネート、その人達に任せていくこと。事務局の支援ばかりが目につくと、全て市がやっただけに見える。そうではなく、住民の主体的な動きに対応できるような事務局への助言等が必要」 ⇒「別WGで自治協議会の事務局の在り方等を記載している。その事務局のあるべき姿にむけた支援をしていくということだが、指針全体を通して、それがわかるように記載する」
11	支援体制と支援内容についての解説・理解しやすい記載について	「図の解説文が次のページにあるとよい」 「図の言葉とその次の表の中の言葉をあわせるとわかりやすくなる」

	論点	意見要旨
12	市民活動・生涯学習活動の拠点について	<p>「『市民活動や生涯学習活動の拠点が求められる場合には、既存施設の空きスペース等の活用を進めます。』との記載があるが、総合計画では求められる場合に限らず、つくるとしている。自治協に限らず、地域を超えて、誰でも使っていていい、拠点をつくっていくような場所が必要ということであり、その考え方を踏まえるのであれば表現の見直しが必要」 ⇒「求められる場合という文言は削除する」</p>
13	指針全体像が見えないため、支援の目的や対象がわかりにくいことについて	<p>「全体をとおして、指針全体像が見えないと支援体制検討はしづらい」 「懇話会にて検討される指針案全体像を共有していただきたい」 ⇒共有し、必要があればWGを開催するが、指針全体には自治協議会の在り方等を記載しており、支援の前提の考え方として、地域自治協議会が主体的に、自律して運営していくことが指針に記載されている、何もかも市が支援するような見え方にはならないように記載している」</p>